

平成24年11月17日(土) 玉里小学校

Q1 とても良いことを並べているのを聞いていたが、具体的にはどうやっていくのか。短い時間の中で意見を求められてもどうかと思う。

A 基本方針を作成した段階で具体的な計画を持っていない。また、短時間の中でご意見をいただくのも大変恐縮する。具体的なご意見でなくても、現時点で感じたことを聞かせていただきたい。今後の計画に反映させていく。今後の進め方は、パンフレット1ページにあるように、基本方針を受けて皆さんの意見を聞きながら小中学校規模配置適正化実施計画を策定していきたい。実施計画の中で具体的な配置のあり方、適正規模のあり方を決めていく。現段階では意見・感じたことを多く聞かせていただきたい。説明会は、各小学校区単位で実施予定。今後も状況を見ながら説明会等を重ねていくのでご理解いただきたい。

Q2 保護者は、パンフレット最終ページの通学区域の見直しと交通手段について一番関心がある。これから説明があるのか。

A 実施計画の中で、再編の具体的なあり方、再編によってはご指摘のとおり通学手段が問題になってくる。実施計画の策定と同時に、あくまで案だが、具体的に実施計画の中に移行できるとなれば、各地域の代表者で新たな組織を作ってください、具体的な詰めの作業が今後発生してくだらうと思われる。地域の方々と十分協議しながら、通学経路などは適正化配置規模が決まってくると同時に詰めの作業となります。現段階ではどことどこがというのは決まっていないのでご理解いただきたい。

Q3 今の市側の説明だけで意見を求めるのは、情報不足ではないか。

A 今回は、基本方針を地域の方に説明し理解を求めるのが目的。特に学校規模適正化についての基本的な考え方については一番気になるころではないかと思う。小学校では1学年2学級以上、中学校では3学級以上を目指す。さらに1学級あたりの適正な人数は、小中学校とも20人～30人と掲げている。保護者・地域の方々から現状と照らし合わせた時に、どのような考えをお持ちか聞かせていただき、適正規模を目指すためにはどのような手法でやっていくのか、どういった考えを整理すればいいのかということに役立てて行きたい。

Q4 規模の適正化について、玉里小は学年1学級なので、クラス替えはあったほうがいいと思っている。中学校についても目安になる規模は確保できるといいと思っている。1学級の人数についても30人後半では先生は大変だろうと思っていたのでこの人数はいいことだと感じている。良い面だけ見れば早く進めて欲しいというのが正直なところ。仮に住民の意見が良いとなった時に、なかなか出来ないネックになる部分、進まない理由はこういった所にあるか。

A 国の基準は1学級40人になっている。小学1年、2年、中学1年については35人学級で進めている。茨城県方式があり中学校について、小美玉市では35人学級を実現している。これが基本になるので、この数より少ない人数の学級を実現するのは今のところ難しい。今後、国・県に働きかけ1学級の人数について加配教員を増やしたり、30人学級ができるように要望をしていく。徐々にこの数字に近づけるよう努力をしていくが、今すぐは難しい。そういったところがネックになっている。

Q5 小中一貫教育が書いてあるが、全ての学校で小中一貫教育を行うのか。

A 現在、つくば市で実施している。今後の検討課題になるが、実施計画が出来て実現する時には県に要望しながら進めて行く。全ての学校で小中一貫が出来るかは、人数配置があり全ての学校では難しい。

Q6 小中一貫校に行きたい人も出てくると思うが、選べる形になるのか。

A 学校選択制のことだと思うが、小美玉市では実施していない。地域・コミュニティの中で子どもたちが育つということが今の小美玉市の環境と思われる。完全実施は難しいが、指定校変更で学校を変えることはできる。すべてで実施は難しい。

Q7 玉里地区の人数の推移は具体的にはないのか。

A 玉里小学校区の H24 年度児童数 213 人。H29 年度推計 172 人。41 名減。玉里全体では、H24 年度 439 人、H29 年度 367 人。72 名減。

Q8 美野里地区は学校規模が大きいので、40人から30人に学級規模が変われば学校を維持できるが、玉里小、北小、東小は合併はやむを得ないと思う。しかし保護者間では、玉里地区と小川地区が一緒にならないと合併も出来ないという噂が流れ非常に心配している。

行方市では合併が進んでいるが、バス代がかかる。一人3,000円ほど。合併は仕方ないが、バス利用は自分の選択ではないのに家庭に負担がかかってくる。バス運行にあたり家庭の負担はあるのか。

今後合併が進むのであれば、玉里地区の保護者は決め細やかな説明会を望んでいる。

A ご心配されている玉里地区と小川地区というような考えは、現段階では教育委員会は持っていない。今の玉里地区だけでという意見は真摯に受け止めながら、今後の作業に役立てて行きたい。バスの経費について現在案は持っていない。適正な学校の配置が決まらなければ、バスの運行ルート・本数等についての検討に入れない。経費については新たな負担が生じないように十分に協議をさせていただきたい。

Q9 基本方針はどれくらいを目途に進めていくのか

A 慎重に進めて行きたい。しかしながら、学校の現状を見ると非常に厳しいとの意見もある。慎重かつスピード感を持ちながら進めて行く。実施計画の中で整理をしていくことになる。ご理解をいただきたい。

Q10 スクールバス、先生を増やすという話があったが、予算はどうするのか決まっているか。

A 今回の計画が進んで、例えば再編が行われると、国の補助があり、スクールバス・先生のカバーについても同様に補助がある。ただし、2～3年間の限定的な期間。以降は市の独自の財源。新たな財源を発掘したり、無駄を省いたり、市の財政的なものと相談しながらやっていくことになる。

Q11 コミュニケーション力を育てると言っていたが、あいさつするお父さん、お母さんが少ない。子どもたちに声を掛けても返事がないと日頃から感じている。学校だけで教育するのではなく、大人から実践していかなければ。地域や家庭の中で真剣にやっていないといけない。

A 身近なところから意識しながら、コミュニケーションを図っていただきたい。

Q12 コミュニティ・スクールについて、もう少し詳しい説明が欲しい。

A PTAと学校関係者、野田学区コミュニティの役員の約40名が運営協議会に参加している。その中に専門部会があり審査・調査の部会、学校行事運営の部会、総務部会がある。

学校運営に関して運営協議会に諮っていく。学校評議員の役割を地域全体に大きくしたものが運営協議会。学校の運動会のほかに、コミュニティの運動会があり、学校と地域住民と一緒に運動会に関わっている。

授業参観以外に、学校との行き来が増え、地域住民と保護者・学校との繋がりが緊密になってきている。

Q13 コミュニティ・スクールについて、保護者からどのような利点があったか聞いているか。

A 始動してまだ1年程しか経っていない。試行錯誤している状態。模索をしながら進めている。一部の保護者からは実施することの意味・効果について意見は出ているが、携わっている保護者・地域住民はコミュニティ・スクールの重要性を十分認識している。今後の運営協議会の運用について定まっていない状態の為、全体の効果が見えてくるのはまだ先になると見ている。

Q14 地区ごとの説明会は再度、再々度行う予定か。

A 皆様のご意見をいただきながら、基本方針を進めて行く中で段階を見極めながら、小学校区単位・中学校区単位、さらにはもっと違う単位での説明会を検討委員会のなかで協力いただきながら重ねていきたい。現時点で、いつ何処でと申し上げることは出来ないが、重ねて説明会・協議する場を検討しながら設けたい。

Q15 他地区の内容について、フィードバックはあるか。

A 意見を集約し取りまとめたものを地域、議会、学校にフィードバックし、さらに議論を重ねて行く。何らかの形で周知できるようにしていく。

Q1 スポーツ少年団の指導をしている。小学生の指導にあたって、小学生3年生くらいまでを指導していると、人数の適正があり、ひとり20人くらい。話して分かる子ども、練習不足で出来ない子、など色々な子が低学年にはいる。人数などを見ていると小学4年生くらいまでは1学級20人くらいがちょうどいいのかなと思う。4年生以上になると、友達と切磋琢磨するところが必要になってくるので、30人未満がいいところかと思った。クラスの数が出ていたが、クラスの数に関係ないのかと思う。クラスが多いと、1つの学年の中に知らない友達がいる。同じ中学校を卒業した、というだけの保護者が非常に多い。そういうことがあっていいのかと思う。400人以上の学校は1学年が120人から150人くらいであって欲しい。再編については賛成。これから新しいものを作っていったら、この先それが継続して何十年にも亘って続いていくわけだが、古いものと新しくしたものを融合させていかないと。地域として活発化していくかどうかを心配している。昔の良いところがなくなると寂しい。保護者が仕事柄、学校に協力してもらえないことが多いと実感している。PTA活動など見ていると、どれだけ参加してもらえるかどうか疑問はある。再編後参加率が悪くなるかも。良い方向に向かっていくなかで、最初に悪いものはなくしておいたほうが良い。

A スポーツの指導者としてやっていただいている中で、一人の指導者としては20人くらいがいいのではないかと。その理由として、話して分かる子、スキルが身につけていない子、色々な子どもがいるなかでは、ひとり20人くらいではないかと、というご意見。

学校としては現在、国の法律上1学級40人。小学校1年、2年は35人。中学校1年も35人学級で行っている。茨城県は、中学校についてはすべて35人学級を認めている。今回、20人~30人という人数が出てきているが、現状で実現することは難しいが国・県に要望しながら進めていきたい。

クラスの数について、1学級という小規模校には小規模校なりのよさがあると思う。子どもたちがグループ学習、少人数の活動を行った時に1学級しかないで6年間同じグループのメンバーが変わらないということが起きてくる。できるだけ多くの人に関わったり、多くの人に刺激を受けることで子どもたちの物の見方、考え方もかなり良くなって行くのではないかと考える。そういった意味ではクラス替えができるくらいの学級数が必要ではないかということで話をさせていただいた。

小学校は2学級以上、中学校は3学級以上。当然大規模校は多すぎるかと思っているので、できるだけ大きくなりすぎない程度で、考えていきたい。

学校は地域にあるので、地域の方が色々な意味で関わっていただくのが一番良い。できるだけ希薄化が起これない規模ということでも小学校2学級以上、中学校3学級以上で、1学級20人~30人を考えさせていただいた。

今日のご意見を今後の協議する中で十分に考えていきたい。

Q2 説明会を開いて、この人数しか集まっていない状況をまず考えて欲しい。学校のあり方等については勧めていかなければならないと思うが、どういう主旨で説明会を行っているか解っていないため集まらない。興味がないからではないと思う。どういうふうに伝えていくか全く分からない。その中で意見をと言われても、まずどういう方向に進んでいくか明確でない以上、意見は出にくい。改善すべき点ではないか。基本方針の意見を聞きたいという主旨で、この会が開かれているのかと思うが、あまりにも漠然としすぎていて、意見を求められていても、答えられる方が何人いるか分からない。保護者は、検討委員会が開かれていて、どういう進み方になっているか分からない、こういうことがあると言うことを今回知ったという状況。小中一貫教育とか、校舎の老朽化等を含めた形で小美玉市が学校と言うコミュニティをどういう風に考えていくかということも実際に打ち出されていない以上、実行に移していくのにあまりにも工程（ゴール）が書かれていないと実施されないだろうと。行政である以上よくあるパターンだろうと思う。企業なら目的があって、そのためには何年以内に何をどうするのか、どういう意見をどう集めるか、それに対して今回はこういうことで意見が欲しいと言うことがないと、意見が欲しいと言われても多分出せないと思う。今後何度も説明会を行うと思うので、その辺を明確化していったほうが、集まる保護者や地域の方も増えるのかと思う。

A 本日の説明・内容は薄く分かりづらいというのはご指摘のとおり。本日の説明会については教育委員会で配布したパンフレットにあるように、学校規模の適正化に向けてスタートを切ったというお知らせを含めて、お集まりいただいた。今後説明会は、あらゆる段階を見極めながら、何度か重ねていく予定。ご指摘のとおり説明会の主旨、今後の日程等もある程度どのように進めていくのか、時期的なものについてはデリケートな作業も含まれているので、後ろを決めてというのは非常に難しい。検討委員会で検討しながら一定時期には示して行きたい。今回の説明会は各小学校区で行っている。家庭に持ち帰ってこういう話が出たなど、足を運んでいただいております。直接教育委員会へ電話等でお知らせいただいても結構なので、ぜひ宜しくお願いしたい。

Q3 基本的方向性ということで、小中一貫教育・コミュニティスクールということで、実際に小中一貫教育を進めていこうと思っているのか。それとも、進めるにしても校舎の問題とかで10年くらいのスパンで考えなければいけない。1年遅れれば1年ずれるとなると、結局、絵に書いた餅のようなものになるのか、話し合った結果、結果的に統廃合だけで済むのか、市としてどういう方向でいけば良いのかということを考えているのか聞かせていただきたい。

A 基本方針で謳っているものは今後、実施計画を策定していくなかで、皆さんからの意見、検討委員会の中で協議を重ねながら、適正な配置・規模について、学校によっては早い段階で出来るところもあるだろうし、時間が係るところもある。学校によって時間差が生じる。今後実施計画を進めて行く中で、何とか実施していきたい。地域の皆さんの理解が基本。ぜひ色々な意見を出していただいて、なるべくスムーズにそういった方向に行こうできるようご理解をお願いしたい。

Q4 一人ひとり何かしらの意見は持っていると思う。ただ、発表するまでに至らない。もっと内々で討論できると、意見を酌み交わせると色々話ができるかと。これをきっかけに、各小学校で何かしらの話し合いの場を設けて、色々な意見を取っていったほうが出るのではないかと思う。先生方も含めて、特にお母様たちは将来のことを心配するのだろうと思うので、友達同士とか特に枠を決めずに色々なところで話しをしてもらったらどうかと思う。

A 今日の説明は、規模配置の基本方針ということで、本当のスタートになるかと思う。今後の実施計画を策定するために色々なご意見の中から実施計画にどう持って行ったらいいかと言うアドバイスをいただければということで開かせていただいた。今後、各学校の中でも話題にさせていただきながら、より良い実施計画に向けて努めていきたい。今後とも宜しく願いたい。

Q5 もうちょっと具体的に決まっていることを想定して今日に望んだ。まだそのくらいの段階の話なのか。意見を募ってそこから話し合っていくということなのか。巷のうわさでは、統合してスクールバスが走るのではないかとされている。

A ちょうどスタートに立ったところ。パンフレットの後ろに通学手段について書かれている。これは、適正な規模、適正な配置をした場合には当然通学距離が長くなり不便をきたすこともあると言うことを想定したもの。然しながらまだそこまでは至っていない。想定できることは入れているが、まだ何も決まっていないので、違う意見があればお聞かせいただいて、実施計画の中で協議していい形にしていければと考える。

Q6 玉里小のPTA会長をしている。玉里小での説明会にも集まりが悪く、全員が意見を出したわけではない。今後学校のPTAの中で意見を落としていきながら吸い上げていくような形になっていくと思うが、いつまでに上げないと駄目だとか期間があれば教えていただきたい。

A 小学校によって格差が開いている。スピード感を持って取組まなければいけないと考えるが、一方でデリケートな作業なので、基本的に地域の方のご理解を得た上でと考えている。明確にいつまでと、後ろは決めていない。スタートラインに立って、教育委員会は検討委員会を設置し、真剣に議論が始まったとご理解いただきたい。なるべくスピード感を持ちながら、かつ慎重に対応していきたい。しかるべき時期に目標を実施計画の中で定められる時が来ると思うので、その中で報告をしていきたい。

Q7 PTAの中である程度意見が集まったら、教育委員会へ提出すればよろしいか。

A 宜しく願いたい。PTA会長には会合でなるべく議論をしていただければありがたい。そういった際に、データ・資料等要望があれば教育委員会へ言って頂きたい。出せる資料等、又職員の派遣が必要であればその場に行かせていただき、説明しご意見をいただきたい。



Q8 玉里東小のPTA会長をしている。適正化について4,5年前からPTAで話をしてきた。その当時は反対するという意見だった。反対運動が起きずここまで来たのは、東小地区の子どもの数の推移を調べ、減っていくのは確かだということを念頭に、様子を見てみんなで勉強して結論を出そうとなったから。

教育委員会ではまだ何も出ていないと言うかもしれないが、東小、玉小、北小の合併について想像して話をしている。文科省では40人と言っているところ、適正化検討委員会では20人~30人で2クラス以上の立派なクラス編成をしようとパンフに書いた。昨日、今日の説明会の話の聞くと現実的には、40人というのは県など色々なところに検討しないとそうなるか分からないみたいな話をする。ここに20人~30人と書いてあるにも関わらず、また元に戻って40人というクラス編成になってしまうのか。予算の関係か分からないが、東小の説明会には見通しを具体的に聞かせてもらいたい。

A 国の方針として1学級40人と話をさせてもらった。茨城方式で35人は認められている。小美玉市は小学校1,2年が35人、中学校は全て35人学級。課題として校舎の問題、教員の配置の問題があるので、急には無理だが、小学校の35人までは何とかいける思案は出来ている。35人は最大限の数であって36人になると2学級になる。例えば40人なら20人ずつの2学級になるので、35人を目標に進めて行けば20人~30人の学級というのは十分作れると考えている。35人については、スタートすると言うことになれば可能な状況になっている。

Q9 クラスの人数等に関して市独自に教員の雇用と言うことがあったが、臨時採用であったりTTと言う形で副担任と言う形をとりながら目の届く教育をしていったほうが、1クラス20人ということを現実化させるためにもいいのではないか。小美玉市に財源はあるのか。教育は基本だと言っておきながら無駄な施設があったり、無駄とは言わないまでもそこへ一人臨時講師を雇用するということを実際に動いているのかと言うと疑問に思う。そういうところからやっていくとか、目に見えるところからやられるほうが現実味があって、検討中は動かない、色々な意見をいただいてから決める・・・決まらない、と。やれるところから副担任制度などを取り入れていくのはどうか。

A 現在、加配の教員は県費の教員もいるし、市独自として小学校150時間、中学校400時間という時間の中で、教員免許を持った方、学生を配置している。十分は数字かと言われれば十分ではないところもあるが、学力向上支援という形で一人入っている状況。学力向上が目標なので、一人の先生では目が行き届かない場合もある。そういうところへ学力向上支援員を入れている。今後増やすよう努めていく。

Q10 旧玉里として話をしたほうがいいのか、小美玉市として考えたほうがいいのか。  
みんなの中でバランスが取れていない。先ほども巷の話が出ていたが、そういったところをベースにおかれて話が出てしまうと、意見が偏ってしまう。「うわさ」にあるような旧玉里村・旧小川町・旧美野里町といった枠は存在するのか。

A 基本的には小美玉市の小中学校なので、全域を基本と考えている。旧町村域に囚われることなく全体を見ている。然しながら現実として小学校区・中学校区が存在している。旧町村界も無いとは言いながら意識をしているところもある。将来に向けての適正な規模・配置なので、場合によっては旧町村の行政界、小学校区・中学校区の真っ白な状態から今一度考え直していただいて、ご意見をいただければと考えている。自分の生活している地域の意見でも結構なので、市としては小美玉市全体の小中学校の適正な配置・規模なので、将来の配置によっては学校の区域も調整するところがあるだろうと考えるので、広い視野でのご意見を伺いたい。

Q1 少子化に伴う適切な学校の統廃合というと、「適切な」という言葉は非常に響きはいいが、統廃合はそうなのかと思ってしまうところがある。例えば3校が1校になると2校は廃校扱いになると思われる。その背景には、市に確かめたことがあるが学校の教育予算をできるだけ圧縮したい、児童一人当たりの経費を削減したいという思いがあるみたいだ。それを言うと市民の中から非難が出て市長のリコールにもなりかねないので、それは言えないということも一理あるかと思う。企業であれば負採算部門は切り捨てたり、売却したり分社化したりしてどうにか処分できるでしょうけれど、義務教育というのは当然ながら公益的な事業で営利目的ではないので、そういったことは出来ないと思う。

本年度の小美玉市の教育予算は9月補正も含めると25億9千万円。石岡市は41億、土浦市は61億円の予算を計上しているそうだ。小美玉市においては年1%くらいのアップかと思うが、3~4千万円くらいかと思う。それは無駄を省くとか他の部門の予算を削るとかして教育予算を確保して欲しい。

6月までは、八幡池を埋め立てるとか、その周辺の土地を一反歩434万円で購入。執行部はそれに伴う費用1億8千万円くらいの予算を計上しようとしていた。ところが、市民の大変な反対、議会の否決を経て、潰されて凍結ということになっているが、そちらから金を引っ張ってくることも可能ではないかと思う。

子どもたちは国の宝だ。奈良時代後期に歌人の山上憶良も国の宝は子どもだと言っていた。日本の将来を担う子ども達をしっかりと教育するのが大人たちの責務である。国の根幹は教育。国民一人一人の教育のレベルが低い国は国力が脆弱。小美玉市を含めて義務教育で質の良い先生を集め、質の良い教育をすれば、レベルは間違いなく上がる。

東小は昔、玉川村立玉川小学校と言われていた時代は、今の3倍の児童数だった。今は66名。東小は小規模校だが、児童の学力に関しては市では最右翼（最有力？）であると聞いている。先生方の教育指導方針によっては大規模校には染みとおらないユニークな教育の仕方があるのではないかと思われる。校長がいるのでどういう教育をされているのか後ほど説明願いたい。

少子化と言って手をこまねいてはいけない。少子化だからすぐ統廃合と言ってもらいたくない。少子化を止める対策は何かないか。適切に子ども達を増やす対応をしているか。以前、石原都知事は著書で「魅力あるまちづくり」だと断言していた。魅力ある小美玉市を作れば若い人は寄ってくる。どうしたら良いか。税の優遇措置をとる、児童手当しっかりやる、社会福祉・保障を拡充する、安定した就職に就ける、安心した子育て、防犯も含め、というような対策。市は無理しても住宅資金を融資したら良い。震災で帰れない人を引っ張ってくれば子どもは少しずつ増えてくる。子どもが増えれば3校を1校にすることなど考えなくていい。将来を予想して、時代に即行した合理的な教育も必要だろうが、そのことについてお聞きしたい。

小美玉市では魅力のある児童が増えるような方針で何かやっているか。現況は何かやっているか。確認したい。非常に大事なことだ。魅力的なまちづくりをして子どもを増やしていこうということは根本的なことではないか。

A 少子化対策を具体的に何かやっているかと言うことだろうと思う。全国的に、また小美玉市も少子化の波を受けている。市では、合併直後に総合計画を策定し、今年度で後期5年間に入るところ。少子化対策にいろいろ手は打っている。しかし決め手がないというのが現実。

合併直後から企業誘致の担当セクションを設置し活動してきている。国道6号線、355号線、小川地区にテクノパークという工業団地。交通網をとってみても高速道路のネットワークが整備され、利便性が良くなった。企業誘致にも力を入れているが、色々な場面での世界的不況を受け、合併後に新たな企業誘致した実績はない。県全体では、全国的にも企業の誘致はトップレベル。市でも独自の政策打ち出して、税の免除等も含め企業が立地しやすい条件を整えながら進めて行きたいと考えている。総合計画も後期に入っているので十分見通しを図りながら効率の良い確か

な企業を誘致できるよう取組をしていきたい。

魅力あるまちづくりをしていけば、新たな定着人口が望めるのではないかとするのはご指摘のとおり。羽鳥地域では民間の新たな団地ができた。羽鳥地域では若干少子化に歯止めがついている。一時的な歯止めの対策として、団地の整備もあろうかと思う。それを継続させ定着させるためには新たなまちづくりを考える必要があると考える。空港を利用したまちづくりをいかに全市に波及させたいのかということ色々な計画をしている。目に見えるところまで至っていないが、空港の前に空の駅を計画している。仮称ではあるが、各地域を回りながら説明をしているところ。早期に整備ができるよう努力している。羽鳥駅の橋上化も具体的な検討に入っている。玉里地域では霞ヶ浦沿岸地域の整備構想も検討している。地域地域での拠点の整備を図りながらうまく連携させ、さらに集客力を上げるような施設も含めまちづくりを考えている。目に見えた形にはまだなっていないが、後期計画に位置づけしながら魅力あるまちづくり、市独自の少子化対策、財源にも限りはあるが少しでも重点的に配分できるよう総合計画の中で努力していきたい。

Q2 少子化をなくす方法をさらに検討していただきたい。統合・再編ということだが、非常に課題多い問題。教育長挨拶にあったように東小には東小の良さがある。経済的な効率を中心に考えての統合を進めることのないようお願いしたい。生徒数が多くなればこういう点がいいという説明あったが、小さい学校でもこういう点がいいという分析されたものが出ていない。一緒に挙げて比較して考えられる資料があれば、なお良いのではないか。

2点尋ねたい。

① パンプの中でスクールバスの運行について触れてある。統合される学校からすれば遠距離になってもスクールバスが出ればいいのか、という一面も出てくる。課題が多いと思う。担当で現在考えられるスクールバスの課題は？

② 例えば、行政でスクールバスを出すという前提で話しをしていたが、市で運行を考えてくれればいいのか、いよいよとなった時に財源その他運転手の確保などから、市で運行は無理だから保護者で考えてもらうということがおきてくると、スクールバスはそういうものだったのかというようになってくるかと思うので、市で運行するのなら財源確保・運転手の確保・バスの確保を進めていただきたい。利用者は有料か無料か。統合される学校の子どもの場合、希望すればすべて利用できるのか。基になる学校の子どもの場合でも統合された学校より距離の遠い子もいる。距離への対応。天気、道路の凍結の場合。スクールバス利用の子どもだけが授業に出られない場合も出てくるのか。そういったことも十分検討され解決しておいて欲しい。自転車通学もあるかもしれない。保護者・学校の判断に任せるのか。教育委員会が何らかの枠を決めるのか。検討を進めていただきたい。

学級規模の考え方が出たが、1学級20人～30人と書いてある。この辺で学校が動くのであればいいとの想いもあろうかと思うが、小さく35人以上生じないように配慮すると書いてある。30名は最大数と考えていいのか。とすれば36名以上の学級云々という表記は必要ないのではないか。例えば1学年60名の学級になったら3学級になるのか。30名の2学級になるのか。20～30というのは、何か安心させる為のマジックみたいなもので具体性に欠けているような気がする。大変誤解を招く記述の仕方。もっと分かりやすく具体的に36名以上にしないということの35名以下の・・・ということになるのかと思うが、70名を超えなければ3学級にしないのか、その辺はどう考えているのか。

大規模校とあるのは、何学級以上を大規模校と考えているのか。

A① 統合・再編された場合には通学距離が著しく変わる場合があるので、頭出しをさせていただいた。1つの例として出している。今考えられる課題としては、学校の配置が決まっていなかで申し上げるのは非常に苦しいが。例えば、いくつかの学校が1つになった時に、廃校になってしまった地域の方が学校へ通う際に仮にスクールバスを出したとして、ルートによっては長時間の乗車になる子どもが出てくる。学校で何ルート確保すれば良いか。検討課題のひとつ。運営面での課題として、運営に経費かかるため財源の確保はどうしていくか。下校時に一定のところまでの経路になるかと思うが、低学年について迎えが必要にならないかといった心配もある。

A② 現在の国の1学級の定数は40名。小学校1年、2年については35名。中学校1年も35名。それ以外は全て1学級40名が基本。茨城県、特に小美玉市については全て35名学級として運営している。県内の他地区では40名のところがあるが、小美玉市内の中学校は全て35名で構成。

すべて20~30人で話をいただいたが、基本的にはこれを目指していくというのが今述べられるところ。35名以上にならないように配慮していきたい。60名を例に出していただいたが、この場合は30、30で最大の30のところに行くのでそう考えざるを得ないかと思っている。最大が35ということであれば、33か34がほしい最大限になって来るかと思う。今現在も35名にすると1学級が30名を下回る学級がほとんど。そういうことからすべてについて35名以下というところで見えていった時に、すべて20~30というのは保証はできないが、おおよそここに入ってくるかということはシュミレーション出来ている。適正化ということで進む以上、35は超えないよう努力していく。予算措置含めて県・国に要望してまいりたい。ご期待いただきたい。

Q3 最近、教育長が替わった。教育長が替わった理由に「サッカー場反対」に賛成で替わったと思う。そういうことがあるのだから、この時期に小中学校の適正化は時期をずらしてやったほうが良いと思っているがどう考えるか。

A 教育委員会、教育長の問題で皆さんにご心配、ご不安を与えてきてまいりましたことをお詫びしながら答えさせていただきたい。スポーツシューレ問題で前教育長が議会で教育委員の任命同意得られなかった時期ではある。そう言った時になぜまた適正化配置の話を提案してくるのか、という事だと思うが、以前から適正化の検討には着手していた。たまたまではあるがそういった時期と重なっている。非常に混乱を招いたことについてはお詫び申し上げる。少子化とか新しい学校のあり方、説明の中でも申し上げた小中一貫への移行、そういったものもいつからいつまで、どのようにという議論はいずれ開始をしなければいけないし、完全に手遅れになる前に、皆さんのご意見をいただきながら議論を重ね、進めていくものと認識している。理解いただきたい。

話し合いのスターを切ったところ。今後実施計画の中で再編の時期、仕方などを決めていくことになる。そういった作業の中で各地域のPTA、地域の方々の代表者からお骨折りをいただきながらきめの細かいところまで議論を重ねて決めていきたいと思っている。先ほどスクールバスの話も合ったが、スクールバスの限らず色々な通学手段が考えられる。地域の実情に合った通学形態が取ればと考える。地域にあった考えがあればお聞かせいただき、皆さんと一緒に考えていきたい。いつから始まるというのも未定だが、ご理解をいただきながら進めて参りたい。

Q4 結局、市は財政のことしか考えていないのではないか。

A 財政が厳しいのは皆さんもご承知のところ。しかし財政面で始まるのではない。教育環境の改善、向上を基本に考えているのでご理解をいただきたい。財源についてはなるべく市民の方々に負担のかからないような財源の確保を努力していく。

Q5 今日、たくさんの人が来ているが、これから学校へ入る子を抱えている。これだけ人が集まったということは、小美玉市で一番小さい東小が最初になくなるだろうと心にあるから。そのことは分かっていると思うが、経済効率で教育を論じるのはいかがなものかというのは、誰もが共通した認識。具体的に大規模校と玉里東小の一人当たりの子どもに直接的経費でどのくらい使っているのか掴んでいるか。

A 具体的には掴んでいない。

Q6 石岡市と土浦市の一人当たりの経費との比較も調べてみてはどうか。

A 近隣市町村のデータもこの機会に比較してみたいと思う。

Q7 事務局に認識を確認したい。小規模校であるが故に心が育たないとか、コミュニケーションが不足するとか、学習能力が欠如するとか、そういったことを事務局が節々に発言しているが、東小はそういうことはない。ましてやそれ以外の小規模校でもそういうことが本当にあるのか。1度訂正したにもかかわらず、そういうことを話すということは認識していないのではないか。

A 小規模校ということで問題発生していることはないと思っている。小規模校の良さはたくさんある。アットホームな雰囲気の中で学校生活を送れる。先生と生徒の距離が近く、特に学校行事では学校全体が一丸となって活動しやすい、という良い面がたくさんある。学力的に落ちていることはない。パンフレットで挙げたのは小美玉市のアンケートの結果及び国からの様々な情報、やはりアンケートの結果と思うが、そういうものを参考にしている。本市の状況も同じであったと言うこと。人数は小さくても大きくても課題はある。人数が少ないとどうか。一人ひとりの関わりが少なくなれば、多くの人と関わることによって自分のものの見方、考え方が、人はいろんな見価値観を持っていて、いろんな意見を持っていて、いろんな良い面をたくさん持っている。多くの人と関わるほうがいろいろな価値観に触れることは確かにあるかと思う。たくさんの人と関わることによってその人の関わった分の価値観、社会性というのも豊富になるのかと思っている。6年間を通した時に、1学級で同じメンバーと関わるよりはある程度の学級編成ができるくらいの学校で、同じグループ内でも色々な人と関わることによって、色々な意見が意見を聞けることにより、一人一人の考え方が固定されないで、社会性についても広い見かたの子どもが育つのではないか。多様な価値観が育ち、知識も増えると思っている。そういう意味で小規模校よりは学級換えのできるくらいの規模を推進していくのが良いかということで話しをしている。

アンケートの中でも小学校は2学級から3学級、中学校は3学級から4学級が一番多かった。多くの人意見から見てもそういえるかというところで、説明させてもらった。貴重な意見であるので、小規模校の良さを活かしながら多くの方の意見を併せ持った学校が出来れば良いと考える。

Q8 発言している内容が、小規模校は、或いは辺境の地域は人間性が育たないのか。東小はずっと20人とかで小規模校としてやってきた。それで育たないのか。東小の人は心が狭いのか。偏った意見しか言わないのか、ということになるのではないか。

(玉里東小校長)

私から良さを伝えていないので、伝えても良いか。

小規模校の良さについてももう少し話を、という趣旨かと思うので取組みを挙げさせてもらいたい。先ほどから話が出ていてこれからおこなわれる能力の面で「参画」というところが大切になってくると思う。コミュニティ・スクールも地域の皆さんが参画するということで行われていると思う。小学生で参画意識というと、全校朝会で1年生から司会をしたり、縦割り班で清掃活動をしたり、低・中・高で遠足に行ったり、行事でも東の祭り、運動会でも自分たちが主体となって参画しないと成り立たないということで、子どもたちが参加している。さらに音楽のつどい、ドッジボールなど多くの子が主役になって活動するチャンスある、というのが東小の良さかと思う。学力についても体力についても決して劣っているとは思っていない。むしろ高いくらいと思う。これには保護者の協力があり、家庭学習の時間が長く取れていたり、さまざまな行事に保護者、ボランティアの方々、有志の方が参加してくれ、応援してくれることで子ども達に元気が貰えて、子ども達が一生懸命取組めるといい循環になっていると思う。地域の方ということでは、見守りボランティアとか稲作りとかアサザとか、いろいろな形で地域の方が関わってくれる。まさに地域の参画をいただいて学校が成り立っているという形。

小規模のよさが出ていないという話だったので、小規模にも当然人数が少なく、新しい友達と出会う機会が少ないとか、そういうことは子ども達に経験させたいと思うが、良さのほうで話をさせてもらえば良さもたくさんある。

Q9 クラス替えができる学級と言ったが、社会に出たらうまくいかないから会社を変えるということはない。私は1クラスの学級で育ったが、その中で折り合いをつけて仲良くやっていくということを学んだ。よって、20人という数字を出しているが……。娘も中1で、リーダーシップをとってうまくやっている。小規模校だから人間関係がだめとは言ってほしくない。

アンケートの結果から20~30名と出たと言っているが、「何名がいいですか」と聞かれれば、なんとなくこのあたりの数字を答えると思う。そのような形であがった結果だろう。

重視すべき事項の一番最後に「県の指針についてはどう思いますか」とあるが、茨城県教育委員会は、小学校で12学級、中学校で9学級を望ましいとしています、というところのアンケートでいうと「重視しなくてよい」「あまり重視しなくてよい」という合計のほうが、「重視すべきである」という答えより多いが、そのあたりはどうか。

A 今回の説明会は、統合を前提にしているわけではない。この数はあくまでも基本構想の数であって、この数を基にして、今後実施計画作りに入る。今回は基本構想としてこのような形がありますよということをお伝えする会である。そこでご意見をいただき、その意見を実施計画作りを生かしていきたい。小規模校のよさ、大規模校のよさがあることを大前提としている。その中で、たくさん意見をいただき、意見の中から検討していくので、忌憚のないご意見をお願いします。必ずみなさまからの意見を基に検討させていただきますので、よろしくお願いします。

Q10 適正化委員会に傍聴に行った事があるが、何度行っても納得できない。東小学校は子どもたちに熱心にやってくれている。適正化委員、教育委員会の話を聞いても、小美玉市がどのような教育を子どもに受けさせたいのかが全く伝わってこない。単に数字やお金、一般的にこうです、昔よりこういうところが下がっていますということばかりで、だからこそ小美玉の子どもたちにこういう教育を受けさせたいんです、そのために統廃合します、そういう話が今までなかった気がする。それが腑に落ちない。

メリット、デメリットは統廃合をしたとしても必ずある。東小学校は人数が少なく、デメリットもたくさんあると思うが、なくなってしまったら2度と戻らない大きなものがこの学校には確かにあると思う。だから、数字や一般論だけで判断せず、現場の先生の力や地域の思い、子どもに対する愛情だったり、この学校がなくなったら2度と戻ってこないものだという覚悟で進めてほしい。子どもにいい教育を与えられるのであれば、親としては納得せざるをえないと思うが、今の所まったく納得できる話を聞いたことがない。

子どもに対する思いを持っていただきたい。

A 地域が育てる学校、地域が育てる子どもたち、そのような方針で小学校にはやってもらっている。優秀な先生方に協力してもらっているのも、素晴らしい教育効果が生まれているものとみている。市が目指すべき方向性については、リーフレットに書かせてもらった。これを目指して市ではやっていく。東小学校については、このような力を身につけているお子さんもたくさんいらっしゃるから、そういうことも含めながら検討を重ねていきたい。

Q11 話を聞いていると答えありきのように聞こえる。

事務局の話は、大規模校がよいということに終始していて、小規模校のよさがどこにも出てこない。アンケートの結果については、大規模校の住民の数のほうが多いので、大規模校よりの結果になるのは当然。小規模校の住民の意見が反映されないのではないかと。数合わせの話ではないと思う。それで簡単に結論付けてよいのか。小規模校の意見もまとめて、何がいいのかもう一度考えるべき。自己表現力の不足、コミュニケーションの不足、対人関係に課題があると、いかにも小規模校が悪いという書かれ方がされているが、絶対そのようなことはない。たくさんの人の中でというのは、早いか遅いかの話であって、その中で自分はどのようになっているかという話である。最初から大規模校だからよいのかということではないと思う。それだけ人間関係が希薄になるかもしれない。このリーフレットは小規模校を切り捨てるような表現になっているので見直してもらいたい。

小学校は地域のコミュニティーの核になっている。学校がなくなってしまえば、その核がなくなってしまうということなので、そこも含めてもう一度見直しをお願いします。

A 表現の面でまずいというご指摘だったので、今後十分検討していきたい。

今回は基本構想のみの説明であり、統廃合を視野に入れてということではない。適正化をするにはどうしたらよいのかということでの説明会だったので、いただいたご意見を検討しながら実施計画作りに向けて再度提案をしていきたいと思う。



Q12 2,3日前に他の小学校の父兄に「3年後に合併する」と言われた。この説明会は建て前で、既に合併問題は進んでいるのではないかと思った。3年後は決まったよと他の父兄に言われたが、実際のところはどうか。

A いつ、どのようにという具体的なことについては実施計画の中で決めていく。3年後ということは、説明会では一切言っていない。そのようなことは全くない。

今日は、基本方針を示した。地域によって、いつからいつまでというところは変わってくると思うし、それらを決めていく実施計画の中でもいつから着手するのかということも決まっていな。現段階では、基本方針の内容を説明し、議論を開始していきたいというスタンスで進めていきたいと思うので、ご理解いただきたい。

Q13 教育委員会とは直接関係ないところからだが、小美玉の役場関係の人から聞いたのだが。しかも、そちらの関係者から、どことどこがということも聞いた。

A そのような根拠のない話をするについては、厳重に注意したいと思う。説明会の場では一切言っていないし、全く決まっていない。みなさんと一緒に考えながら進めていきたい。先ほどから出ている、小規模であってもよい教育環境であるし、地域にあっている、再編が必要ないということであれば、それを基に実施計画の策定に入る。計画の策定にあたっては、行政が勝手に進めるのではなく、地域からの代表で新たな組織を設置し、その中で意見をいただきながら進めていきたい。

Q14 では、何年ごろを到達目標にしているのか。

A 市全体で物事を考える、統一して考えられるものではない。各地域でデリケートな面を持っている。ある程度の目安として目標を掲げることは非常に大事であるが、適正化問題に関しては、いつまでということは今のところ決まっていない。そこも含めてみなさんと協議していきたい。

Q15 結論をいつ出すか決まっていないのはおかしい。税金を使いながら、だらだら仕事をするのはおかしい。

A 今のところは、基本方針が決まっただけで、計画は何も決まっていない。この住民説明会で意見をもらい、計画を決めていくので、今は何も決まっていない。

Q16 3点聞きたい。

うわさが1人歩きしている。私も出どころは違うがいろいろ聞いている。来年までは東小に入れるが、再来年からは玉小だよ、それから、大井戸と平山は遠いからスクールバスで通えるが、岡地区は近いから徒歩だよ、という具体的な話まで出ている。

- ① しかし、今日は「そんなことはない、これから決めていく」という話があったので、それだけは絶対に守ってほしい。
- ② 小中一貫校について、なぜメリットばかりを書いて、デメリットを書かないのか。今朝の新聞で小中一貫校を進めているつくばみらい市について載っていたが、デメリットもあると書いてあった。片手落ち。本当にみんなの正しい判断を仰ぐのなら、いい所も悪い所もさらけ出すのが、資料ではないか。
- ③ 行政は結論ありき。結論に導くために、説明会や意見交換会を開いている。しかし、結果は決まっている。ガスを抜くために開いている。それが分かってひっくり返されたのがサッカー場である。結論ありきで物事を進めてはいけない。これは重要な問題である。結論ありきだったら、どのような責任をとるのか。

A 結論は持っていない、結論ありきではない。結果が決まっいて、手続きだけの説明会だろうということだが、決してそのようなことはない。シューレの反省に立ち、1からみなさんのご意見を聞きながらということ。何の考えもないのか、説明会になっていないだろうというご意見もいただきましたが、計画を持っていないので、具体的に何の説明もできずに苦慮している。メリット、デメリットを示して、正しい判断ができるようなリーフレットにするべきだという所は反省している。

Q17 説明の仕方がまずい。基本設計、自主設計、施工図がある。自主設計の段階ということは建築するんだという既定の路線があるということである。あなた方の話では、自主設計を進めるというように聞こえる。自主設計をするかしないか、みなさんの意見を聞いた上で決めましょうという言い方をすれば、最初から統廃合ありきということで話が進んでいるのではないかとということになり、みんな怒っている。小規模校だから統廃合するという短絡的な直結の仕方は困るというのが大多数の意見。自主設計をするんだという言い方はやめてもらいたい。自主設計をするかしないかこれから決めるんだという言い方ならば話が通じると思う。

A 説明の仕方について、実施計画の策定がいつからということも決まっていないので、言い過ぎた点お詫び申し上げます。

Q18 東小学校は、デメリットとして挙げられているような子どもたちにはなることなく、立派に育てていくことができる小学校です、と自分は思う。ただ、PTA 会長として3、4年後のことを真剣に考える必要があるが、その時入学してくる父兄に、すばらしい学校にあなた方の子どもを入学させたいんですと意気込みをみせないと、数あわせとってしまう。勢いがない、だったら、自信を持ってこの学校なら大丈夫という気合を見せてくれないと、予算の関係だということになってしまうので、気合を見せる必要がある。

Q19 実施計画についても、水本先生が携わるのか。

また、教育委員会は、統合ありきではないと言うが本当なのか。

A (水本委員長)

実施計画は何も持っていない。

みなさんが自分の学校をどのようにしたいのかをとにかく聞きたい。その上で考えるというのが、適正化委員会の姿勢である。

また、お金の問題ではないかという意見があったが、小美玉市というわけではなく、一般論で言うと、統廃合をして財政の効率化にはならない。ですから、私も教育委員会からお金の問題とは聞いていない。これは事実である。私は、「一般的に言って、お金の効率化にはなりませんよ」と伝えてある。ですから、お金の問題だろうと言って議論するのは筋違いである。どこどこをくっつけるとか、何年後にどうするというような考えは、今の所一切ない。みなさんのご要望をお聞きしたいというのがこの説明会の趣旨なので、その点をご理解いただいてご意見をいただければありがたい。

Q20 市では、少子化でもこれだけやっていけるのだということを全国にアピールすることは考えていないのか。

A 小美玉らしい学校教育をアピールすることを考えていくべきであろうと思うが、現段階では、基本方針を策定し、スタートラインに立ったところなので、並行して考えていきたい。

Q21 そもそも学校適正化というのは、国や県の方針だろう。市民からは適正化配置をしてくれという意見は一切でていない。今回も教育委員会から出たのだろう。

我々は、この学校で十分である。この学校こそ、適正である。小規模校にしていくのが、世の中の流れではないのか。どうしてわざわざ大規模校にするのか。小規模校ほど教育が行き渡る。子どもたちがのびのびと教育を受けることができる。そもそも適正化委員会が立ち上がって協議するということは、統廃合が前提にあるのだろう。私は反対である。

A この案件については、行政サイドで作り上げるものだとは思っていない。全小学校で説明会を実施して、みなさんの意見を整理し、今後の作業の進め方に反映させたいと思っている。決して、行政サイドで物事を進めるというスタンスではないことをご理解いただきたい。場合によっては、基本方針で止まってしまいうということもあり得る。みなさんのご理解のもとにやっていくつもりであり、理解を得られないままには進めるということはない。

Q22 要は、こういうふうに決まりますというお知らせをしていくということか。

A 説明会が終了し、取りまとめが終わったら、必ず周知をし、今後の進め方を考えていきたい。

Q23 適正化委員会は夜に開いてほしい。昼間では、聞きにいけない。  
また、傍聴人は意見を言っはいけないようだが、意見を言えるようにしてほしい。

A 私一人の独断で決めることはできないので、適正化委員に提案し、検討していく。

Q24 合併の際にも、住民の意見はおきざりだった。玉里は教育予算が充実していたのに。このような問題は国の方針で教育委員会も仕方のないことだとは思うが、仕方なく取り組むのではなく、真摯に住民の意見を聞いてもらって、子どもたちにとっての未来像を一緒に作り上げていかないと、みんな納得しない、また同じ手口。悔しい思いをし続けている。給食センターの時も、意見を聞かないまま、完成してしまった。5000人の署名を集めたのに。私たちは、いい教育環境の中で、子どもたちを育てたい、それだけである。よりよくなるという具体的なビジョンがないと、この地域の人たちは誰も納得しない。今日はそのような提案が1つもなかった。絵に描いた餅ばかり。提示するではなく、一緒に作り上げるんだと手をたずさえて進んでいくべきなのではないか。

A おっしゃる通りで、肝に銘じて進めていきたい。

Q25 卒業した小学校がなくなるのはかわいそう。  
また、1つの学校が合併したら、その流れで東小も合併しなければならなくなるのか。

A 皆様のご理解を得られないままに進めるということはない。1つの学校が合併したからといって、必ず東小学校もしなければならぬということはない。  
同じ時期に一気に合併というのは、不可能。同じレベルで、同じ時期にというのはできない。大切なのは、皆様のご理解を得るということである。

Q26 本当に必要だと考えるならば、保護者や地域から意見が出るはず。これでは、無理やり進めているのと同じである。

A 合併をしなくてはならないとは申し上げていない。  
基本方針では、適正化の必要性が書かれている。ただ、いつ統合という計画は一切持っていない。今は、基本方針に書かれている適正化の方向性をみなさんに示している。地域によっては必要ないところもあるだろうし、早急に取り組まなければということも出てくるかもしれない。今は、それらの意見を聞いている。  
東小では、必要ないという意見が大多数を占めていると、我々は理解している。東小では全く問題がないと理解している。そのような意見を小学校単位で集約をし、検討の材料にして進めていきたい。よって、決してありきの話ではない。

Q27 教育長，今の話をまとめてほしい。

A(教育長)

合併ありきの話ではない。皆さんの意見を聞いて・・・，皆さんの意見は大部分は合併しなくてもいいですよという感じですよ，そう理解していいですか。  
そのような意見を検討委員会に報告する。

平成24年11月22日(木) 橘小学校

Q1 今の説明はほとんど解らない。2つ質問したい。小学校の人数の減少率と中学校の人数減少率がかなり人数的に変わっている。どうしてか。小美玉市は合併して6年。どうして今こういう問題が出ているのか。

A 小学校と中学校の減少率について開きがあるということだが、%はほぼ同じ。6年間と3年間が影響している気がする。%的にはほぼ同率で減少しているので、大きな差は開かないだろう。人数的には9年間の格差があるので徐々に減少率が高くなっているのかと思う。時間差の関係かと思う。

合併して6年、7年目でなぜこの時期にこういう問題なのかという質問。適正化の議論については今年度急に始まった訳ではない。具体的には平成22年度から議論に着手している。その前には国・県から関連する指針が示されている。市町村においても検討してほしいとの打診があり、県内でも相当数の市町村が検討を開始している。小美玉市は早いほうではなく、若干遅れている。他市町村が始まったから小美玉市も始まったという訳ではなく、将来の子ども達のことを考えながら、このまま減少の傾向を辿った時に、適正規模を配置するには、いつからいつまでという議論を開始しなければならないだろうということから開始をした。本日は基本方針の説明ということで中身があまりないところでの説明会。そういった中で意見をいただくのは辛いところだが、感じたこと、不安に思うことがあればご意見をいただきたい。

Q2 減少率と言ったが、小学校が6年、中学校が3年ということで、この数字かと思うが、この橘小は今まで500~600人いたのが、今は200人単位。かなり減ったが、これがどうしてこんなに減ったのか。教育関係でどういう考えで減ったのか、原因追求が出来れば私たちも納得できる。

当初この地区に百里飛行場が出来たので、そこにかかなり職場が広がって、その周辺で働く場所が出来たと初めは聞いた。今はほとんど百里基地の周りで働いている人はいない。細かいことを言うようだが、北関東防衛局で用地を買収したところの草刈等に、今来ているほとんどが栃木県ナンバー。茨城県のナンバーはない。どうしてこうなったのか。教育次長ならある程度分かると思うのでお願いしたい。

A どうして少子化になったかということだが、小美玉市だけではなく全国的な傾向。出生率の低下。どこかで歯止めをさせなければいけないと言うことで、どこの自治体も一生懸命やってきている。小美玉市でも合併直後に企業誘致というセクションを設け、働く場所を身近にということで、定着人口も増やそうということでやってきているが決め手がない。なぜ少子化かは即答できない。魅力あるまちづくりをして、なるべく小美玉市に住み続けてもらう。また住んでみようと思うまちづくりを目指してまいりたい。

基地周辺の防衛省が買い上げた土地の草刈りが、他県ナンバーの車が入っている。地元の事業者の発注がないと。把握していなかった。百里基地というのは地域の阻害要因でもある。地域の方が直接関わられるよう、基地対策課を通して働きかけていきたい。

Q3 小中学校の現状についての課題の最後に「5教員の多忙」とあるが、課題の中で1から4はすぐ納得できるが、教員の多忙というのは人数が少ないほうが多いところに比べたら忙しさは少ないのかと。私の個人的な意見だが、そう思ってしまう。現状の課題として教員の多忙が挙げられているという事は、どういったところで多忙と感じてしまっているのか。

A 教員について、最近で言えば学習指導要領が変わったための会議や出張。いろいろな調査物等に対応するために、普段の指導のほかに放課後対応しなければならない。そういったところが教員の多忙感。先生にはもっと時間を作ってあげて、その分子どもたちと向き合う時間を作らなければならないと言う思いがある。そういうこともあり、教員の負担を少なくしようということで、課題ということで挙げた。

Q4 アンケート結果で、2 学級・3 学級が良いというところで、対象が教員や一般であったと思うが、先生の意見を別にしてけると良かった。先生方は実際何学級がいいと思っているのか、対象別に結果を分けてけると興味の持ち方が違う。

Q5 本日の説明を受けて、皆さんの反応を見て、意見がなければ適正化で求める小学校なら 1 学年 2 学級にしていこうとするのか。あくまで地域の考え方で学校の存続を考えていくのか。

A ご指摘のとおり。望ましい姿ということで、基本方針では 1 学年 2 学級以上、1 学級 20~30 人ということで方針決めたが、合併して地域それぞれに実情、特長がある。枠の中に入れ込むのは非常に難しい。地域で時期もあるだろう。地域の皆さんとよく話し合いをしながら、いつからいつまでに、どういった方法で、は今後一緒に考えていきたい。

Q6 あくまでも地域住民の意向に沿うということか。若い皆さん、保護者の方がいっぱいいるが、危機感はないのか。私は、基本的にはここを残して欲しい。愛着がある。学校は地域の要。これが動いてしまうことは、橋というすばらしい伝統が破壊してしまう。そういう懸念がある。地域住民の意見を聞いて、ということであれば、これから何回とこういった会を開くのだろうが、若い人たち保護者を含めて、この地域にこの学校がどうあるべきかを声を上げていかないと、少数意見では通らないと思う。まずは、若い人をお願いしたい。

それより懸念していることは、堅倉小と竹原小が、橋小より建築年が遅いにもかかわらず、もう既に出来てしまい、あるいは着工しようとしている。北中も然り。昭和 45 年だと思うが、新築された。三輪教育長と沼田教育長の時代にも言ったことがある。これだけ百里基地に近く、教育環境の用途ということ考えた時には、下吉影小と橋小は別枠。5,6 年前にも保護者から陳情が上がっているはず。今日来ている職員は残念ながら当時に関わっていない人たちなので、分かりづらいところがあると思うが、地域の格差がますます合併後広がってきているという懸念を一番持っている。そういう懸念のある学校が、話の俎上に上がってこない。新しいところが新築されるというのは何とも解せない。データの色々なことがあってのことかもしれないが、そういうものは全く一般市民に見えてこない。聞こえてこない。だから物を見て話すだけだが、この辺を聞かせてもらいたい。

A 橋小の現状、直近の課題である耐震については、教育委員会でも検討している。順番についてはすぐ検討したい。橋小は古いものは昭和 30 年代。いくつか増築を重ね、物によっては今の建築基準法でも耐えられる建物が混在していると認識している。建て替える場合の規模とか、多分だが、検討に時間がかかっているかと。耐震については大規模地震に備えるということでスピードを上げている。橋小についても状況は同じ。早急に耐震化のスケジュールに乗せていきながら、整備を急いでいきたい。

Q7 教育委員会は今回、意見を聞くということだが、基本的な方針というのはあるのか、どういう方向に持っていきたいとか。プレゼンと資料を見る限り、どうも小学校を統廃合したい、というのが見え見え。資料から見るとやはりどこか潰したいというのが見える。誰がどう見ても子どもは少なくなっていく一方。2 学級化するという事は合併させる訳だ。そういう腹積もりがあると思うので言って貰いたい。議論しても結論が生きない。

A 統合ありきかということかと思う。基本方針の策定にあたっては一定の適正規模が必要だろうということで、統合についても 1 つの手法として念頭に入れ基本方針を定めた。将来望ましい学校の規模のあり方を方針では定めている。配置については一切計画も考えも持っていない。適正な規模、望ましい規模を方針で定めた。

Q8 資料は何が書いてあるか分からないと最初の方が言っていたが、素人がぱっと見ても分かるような物を。言葉一つ一つが非常にグレー。何を言っているのか分からない。意見は色々あると思うが、結果をしっかりと出すとか、数字とか。何を言いたいのが見えてこない。

Q9 パンプは普通の白い紙で十分。アンケートは全ての保護者に配ったのか

A 保護者に対しては、全保護者を対象にしている。小学校、中学校の全保護者。市内幼稚園・保育園については一般市民のランダムの中に取り入れた。

Q10 全小美玉市の保護者の回収率は？

A 保護者の回収率は全体で約75%。

Q11 できれば地区別の内容が分かれば。アンケート結果だと小美玉全部なので、橘地区はどういう意見があるのか。みんな同じ答えではないと思う。説明会をされても良く分からない。全生徒50人しかいない所と、200~300人いる所とは違うと思う。各地区分かりやすくしたほうがいいと思う。

A 今回についてはどの地区に対しても、地区別のものは用意していない。

Q12 橘学区は10地区あるが、世帯数はどのくらいあるか。大体1300くらいだと思うが、この地区から小川小へ行っている人、野田小へ行っている人は結構いるが、そういう把握はしているか。

A 今日、データを持ち合わせていない。

Q13 一番近いのは、行方の羽生小学校。魅力ある学校が欲しい。

Q14 小学校が今後生き残っていくために付加価値が必要だと思う。例えばママさんバレーでいくつか体育館を使ったりとかあると思うが、そういったものを提案して欲しい。小学校だけの存続は厳しいが、地域のクラブ活動などを小学校を使わせてやってもらうとか。付加価値を付けて欲しい。

A 今までの小学校だけの形態ではなく、地域との関わりなど皆さんのご意見をたくさんいただきながら検討していきたい。

Q15 昔のことを言うが、橘地区は、ママさんバレー6~7チームで橘小学校の体育館を使って盛んにやっていた。小川町時代に、この隣に3件家があり、移転して体育館ができる予定だった。それが未だにこのままの状態であるというのはどうしてか。駐車場になっているところも買収してある。運動場が東西に広がっていたのを南北にする計画があった。今はどのようになっているのか。

A 記憶では橘小の拡張の為の用地取得に入ったのは平成8年頃だったかと思う。後ろの道路に携わった。体育館の建て替えという話は耳にしたことがある。具体的には用地買収は、グラウンドの再配置をする。直線100mが取れないので、用地を取得しグラウンドの整備が最大の目的と聞いていた。しかし、一部なかなか取得できなかった土地があり、着手できなかったと記憶している。



Q16 この計画はいつまでにまとめるつもりか。

A いつからいつまでにまとめると言うのは今から決める内容。今は持ち合わせていない。十分地域と話し合いを重ねて決めていくのがベストではないかと思っている。行政サイドではなく話し合いの中で然るべき事態になった時に、スムーズに対応できるような時期を模索していく。日頃から話し合いの機会を設けながら時期を探っていくのも重要ではないかと考える。今すぐ必要なのか、今は必要ではないのか、そういったものも併せて議論をしていきたい。

Q17 選択が難しいところ。今、190名ちょっと。6年後には20名近い減少の中で残して欲しいというのがベターなのか。適正規模の中でも配置が適正なのかというのが非常に決断の分かれるところかと。しつこく残してくれと言って残ったが為に将来的に児童数も少なくなって複式になってしまったり、ということも当然考えなければならない。私は残しておいて欲しいという一人だが、それも含めると、何年後に話を決めるという結論は先送りと言う話を聞いていると、この計画というのはどういうことで説明会を設けたのか。5年後、6年後ということになると、当然少子化の時代だから更に減少になってきて、さあどうするんだと言って議論するのか。その辺が見えてこない。せっかく説明会をしていて、各学区とも現状で残して欲しいという話になった時、これは何だったのか、ということになりかねない部分ある。保護者ばかりではなく、地域住民に学校存続についてどう考えるか、この適正規模を示してもらい、アンケートで民意をとったほうが早いのではないか。

A いつまでという想定のない中で、意見を聞きながら説明をさせてもらっている。適正化の問題については非常にデリケートな要素を含んでいる。目指す時期はそれぞれの地域で実情が違う。推計上の話になってしまいが、それぞれの地域の将来の子どもたちの推計をして、どの状況になったらどうしたらいいのかというのは、それぞれの地域でその時点に間に合うように決定していくのが一番いいのかと考える。現時点ではどの地点でというのを皆さんと探っていきたい。説明会での意見収集のあり方ではなく、地域住民のアンケート調査のほうが良いという意見は検討委員会の中で議論していきたい。(説明の仕方、議論の仕方)

Q18 機会均等ということを申し上げたが、何を言いたいかというと、小美玉市全体の中で百里基地のこれだけの騒音が、学校の教育にかなり影響を与えているのかを一般の方は知らない。市長にも言っている。橘小、下吉小がどういう環境下で教育をされているか、少なくとも美野里地区の方々にぜひ知ってもらいたい。1つの学校から1学年でも1クラスでもいいから、橘に来て半日くらい居てもらい、すごいところで勉強しているというのを小美玉市全域が共通理解していたら、学校の新築というのは当然ここが一番だと思う。そういうことが1つも反映されていない。議会議員も何人か来ているが、他の議員は視察に来てせいぜい1時間。その中で橘小が騒音にさらされているというのは理解していない。市民の共通理解を得て、ここに残してもらいたい。ぜひ新築を。陳情してからかなり年数が経つ。その辺で働きかけをしてもらったほうがこの地区のためにはベターだと思っている。学校交流含め、市民の共通理解を得てもらい、その後この学校の新築をして欲しいと強く要望する。

A よく検討させていただく。

Q19 今後の教育に関する予算は増えていくのか、減っていくのか。ほかの県も経験しているが、茨城県は最低。教育もそうだが、福祉関係。埼玉県は中学校卒業時まで医療費は無料。ここは遅れている。魅力がない。そういった面も含んで今後教育に関して予算が増えていくのか、減っていくのか。

A 魅力のある学校環境に向けて、現時点では最大の努力をしていくとしか言えない。予算獲得について努力していく。ご理解を。

Q20 百里基地から近く、かなり騒音を被っている。米軍再編にも関わって補助金がかかり出ているが、小川町時代から一般財源に入っている。それよりもこの地区、地域に特段の配慮をいただきたい。議員の力でこの橘地区、元気のある学校、魅力ある学校作りを進めて行っていただきたい。教育委員会、議員も考えて欲しい。

A 防衛省交付金、補助金は確かに交付されている。交付金の中には一般財源化されているものもある。防衛省の補助金の中には教育環境整備も含まれている。先ほどから指摘されている騒音の影響を受ける学校等に十分に配分できるよう努力していく。

平成24年11月26日(月) 野田小学校

Q1 今回学校規模配置適正化基本計画に沿って、小美玉市の学校を統廃合となった場合は、実際どういった形でどこの区域の小学校が合併するとか、具体的なところは明示されないのか。

A 今後具体的な配置の方向性や手法については、皆さんと十分な話し合いのもとに進めていきたい。パンフレットにあるように中開きの一番下にあるが、基本方針では学校の規模についての基本的な方針を審議したところ。質問にあったような具体的な統合については、各地域の皆さんと十分な協議の上進めてまいりたい。前段として皆さんから意見をいただきながらどういった適正配置がいいのかを一緒に考えていきたい。

Q2 保護者の立場からすると、これで決まったとなった時に自分の学区が統廃合に含まれれば反対となる。含まれないのなら賛成。地域で優位性が出てきてしまうので、これを基にして決まる前にこうなるというのが動く前に、下吉小がなくなる、上吉小がなくなるというのが出てから最終的に決まっていけばいいが、20名~30名にします、2学級以上にします。いいですか、いいです。そしたら今度は下吉影小が…というのが後から来ると地域の人からも反対の声が出てくる。実際、基本的な考え方を基にして実施した場合どうなるのかという概要があってもいい。

A 言っている意味は十分理解できるが、適正な配置については範囲、基本方針で示した1学級の人数や学級数を基にしても、何通りもの組合せができる。場合によっては小学校区の区域の見直しだけでも可能などころもあるだろうし、質問のように統合しなければ適正規模が保てない。各地域によっても時間差が生じる可能性がある。野田地域であれば1年~6年までの人数が現時点と同じように何年か先の子ども的人数が出てくる。地域によってはかなり変動がある。そういったものを地域の方々と、いつからいつまでの方向性を出すかということも今後話し合いを重ねながら決めていきたい。野田地域では、自分たちの地域ではこういう学校が今後いいのではないかとか、こういう学校のあり方が望ましいという意見があれば聞かせていただき、今後の具体的な計画に反映させてより良い計画にしていきたい。確かに基本方針だけで意見を、と言われてもすぐには出てこないと思う。今日は市の基本方針を聞いていただいて、現時点でも結構だし、将来的にこういうことが不安だとか、学区の区域は今どうなのかでも結構なので、色々な意見を聞かせてもらい具体的な計画に反映をさせていただきたいと考えている。

Q3 先ほど教育長や次長が言ったことは解るが、市の出したビジョンがあってそれに対する反論とか賛成論を聞くのかと思っていた。いろんな噂が出ている。こういう数字を出したら、1学年の規模が何人とか当然憶測はする。通学距離が4キロとか6キロとか数字が出てくるが、その範囲以内なら絶対合併とか出来ない。それでも市は適正化をするのだという通学距離が遠くなる生徒も出てくる。その辺はビジョンが出た中で、これではとても賛成できないというのが住民の声だと思う。その辺は何もまだ基本的に出来ていない。我々に具体的に質問してくれと言われても難しい。今まで子どもは車などで送り迎えをしないで、学校に通える距離、それは確保して欲しい。今も何人かは保護者が送り迎えしているが、それをやると子どもたちの乱れが出てくる。その辺は考慮してもらいたい。返答はないと思うが、希望として。

Q4 小学校2学級以上、中学校3学級以上を目安、1学級20~30人という数字はどこから出たのか疑問に思っていた。今の説明だとアンケートということだが、例えば20人くらいの1学級くらいしかいなかった場合、小美玉市の学校教育が目指すべき方向、これからの学校のビジョンとか書かれているが、これにどんなデメリットが出てくるのか。

Q5 20人以下では学校は存続できないのか。30人規模にしなければ学校として成立しないのか。今のま  
までもいいだろう。教育が目指す方向性とか、これからの学校のビジョンとか説明したが、20人いかな  
かった場合どんなデメリットがあるのか。まるきり出来ないということか。

A 野田小を見ると、1年～3年は2学級、4年～6年は1学級。20名いない場合という話だと思うが、当然  
非常に少なくなれば複式学級の可能性もある。これはかなり少なくなった場合なので、そこまで少なくな  
ることはないと思う。当然学校の1クラスの人数というのは、小規模にすればするほど学力向上に繋がる  
と思っている。ただ色々な人との関わり、人から学ぶという事を考えると、ある程度の人数は必要かと思  
っている。そういう意味で20名くらいと言うのが出てきている。20名で学級を構成して十分問題なくで  
きると思っている。それが2クラスくらいあるのが望ましい、と今回アンケートでこういう結果が出てい  
る。特段これで大きな問題が生じるとは考えていない。

Q6 人数とかは文科省から下ってきた数字ではないのか。

A あくまでもアンケートから出たのと、委員会の中で協議した数字。

Q7 20人くらいいれば学校として成立するということか。

A 規模としてはそれで駄目ということではない。今回の適正配置ということでは、それが2クラスあるの  
が望ましいということ。

Q8 これはアンケートでしょう。

A アンケートの結果と検討委員会の協議をまとめたもの。小美玉市の基本的な方針としてはこれを目指し  
ていきたい。

Q9 疑問に思ったのが目指すところが、アンケートを取った数字が20～30人から、だというのは、こち  
らの学校で形成する人間像と能力を満たす為に20～30人のクラスを作るのはまた違う気がする。有識  
者と一般人の考え方が違うのは当然だと思うが、有識者の20～30人の編成が理想だ、それに対して市  
民はどうなのかと言う形なら分かる。アンケートを自分も答えているから分かるが、20～30人に何の  
根拠もない。それが一般市民と保護者。教職員はプロなのでそれを同等に扱われるのが理解できない。  
有識者が実際何人のクラスが人間性とか能力を育むのに一番適しているのかが資料に載っていないの  
で教えて欲しい。

A 20～30人という数字は、アンケートだけではなく検討委員会の中で協議した結果、その数字になった。

Q10 それが多すぎたアンケートの数字と。要はアンケートの中で一番多かった人数と有識者の人数が多すぎたと言ったことか。一般市民が望ましいのが20~30人。それに対して、教育委員会が協議した結果、多いから20~30人にしましょうとなったのかと思ってしまう。要は、実際有識者はこういった形のビジョンを持っているのであればそれに対して、何人の学級が本当に望ましいのかというのがこちらには書いていない。協議したとはあるが、本当に合致しているのか納得できない。

A 今の国の1学級の配置は40人。小学1,2年生、中学1年生については35人学級。35以下のところは国の基本にはない。ただ、35人学級はちょっと多いという意見があった。10人以下は複式になるという問題も出てくる。総合してアンケートの結果も考慮して協議した結果が20~30人であり、国、県が目指している数字の1学級の人数もその辺になる。協議の上で20~30人というのが適切な1学級の望ましい姿ということで、小美玉市の学級の数字が出てきた。

Q11 ビジョンがないから議論が出来ない。我々もどこに話を持っていったらいいか難しい。配置適正化作ったのは分かるが、最初はどういう意味合いを持ってこれを作ったのか。今のままでいいのではないか。適正化基本方針を作って市は何を考えているのか。

A 適正化検討委員会を設置したきっかけは、少子化による学校の生徒・児童の減少ということが念頭にある。確かに国・県からの働きかけもあり、茨城県内でも近隣市町村含めて適正化の議論は進められている。小美玉市でもこのままで良いという所もあれば、学校によっては全学年1クラス、しかももうすぐ全学年で10人を切るというところも発生する可能性も含んでいる。そういった中で議論はそろそろ開始をして、将来いつからどういう状況になったら、子どもたちのことを考えながら議論をしていく必要があるだろうということで、検討委員会を設置し、市としても将来的には適正な規模・配置は必ず必要だろうということから基本方針を定めた。しかし、地域によっては格差がある。さらに地域それぞれにいつからいつまでという議論があるかと思う。この野田地域にしても現時点では今すぐどうと言うのではないと思う。しかし、将来の予測をしながら学校のあり方、地域のあり方を改めて議論をしながら、将来にわたって活性化するような、元気の出るような地域になるには行政サイドだけではなく、皆さんと話し合うきっかけになればということもある。全く具体的な計画がない中での説明会。検討委員会の中でも検討されているが、そういったものを作り上げる前の段階から地域の皆さんと十分に話し合いをして決めていこうという主旨の元にやっているのだから、ご理解をいただきたい。

Q12 言葉の中に統廃合が出てこなかった。私はそれがあって出席した。今の言葉の中にはなかったのだから、あくまでも計画はないと感じたが、小学校は地域性があるから、我々の親世代から野田小学校は存続している。地域性の「しがらみ」はなかなか解けないと思う。統廃合になれば早めに皆さんにこんな方向付けをしたいと、我々に示してもらい、その中で我々が検討していく流れが良い。あくまでも憶測で数字ばかり追って行って、野田は駄目だとか何とか残りそうだとか、そういう話が先走ってしまう。その辺があまり広まらないうちに統廃合とか市はこのくらいの規模にしたいという具体的な話ができればいいと思う。

Q13 実際、ここにいる先生方はどう思っているのか。実際教室で勉強を教えるのは先生方だと思うが。

A 具体的に各学校の意向は聞いていないが、アンケート実施した時には学校の全教職員に参加してもらった。そういう意味では流れについては了解していると思っている。アンケートを通して先生方の意見も反映されていると考えている。

Q14 基本方針を策定されたが、実施計画の策定年度は決まっているのか。

A 表紙のことだと思う。右側に実施計画がある。最終的には具体的な計画を実施計画の中で決め込んでいく流れ。いつからいつまでは決めていない。実施計画もいつまでというのは決めていない。今進めているのは小学校単位で基本方針の周知、説明をしている。現在5校目。各地域、さらには全体の意見を取りまとめて検討委員会で検討し、さらに学校の保護者等とを絞った説明会を重ねながら実施計画に移行する適切な時期を見極めていきたい。ダラダラやっているのかという意見もあるが、学校の適正規模・適正配置については地域ごとにもいろいろな実情があり、デリケートな部分もある。地域の皆さんに十分理解いただくことを前提としている。いつまでという期限を定められない。また定めるべきではないと今の時点では思っている。

Q15 他の地区で出た意見を聞きたい。参考にしたい。

A 今日ご意見いただいたように、何で始まったのか、いつまでにやるのか、もうほとんど決まっているのだろう、等の意見をいただいている。地区によってはそっとしておいて欲しい、このままでいいだろうというところ、少なくなっていくと支障をきたすなら再配置・統合もやむを得ないという意見もいただいた。小規模で減少傾向が強い所は両方の意見があると思う。これでいいのか、という意見、無くしてもらっては困るという意見等、様々。全小学校区を回り集約し検討していきたい。

かなり噂が先行している、と感じる。白紙の状態ですスタートする。基本方針を基にこれから一緒に考えていきたいと述べているが、地区によっては噂が先行し、噂が本物のように広まっている。1から考えていることを理解いただきながら進めている。

Q16 個人的意見。小美玉市の名称は当時私も賛成したが、今考えるとなぜ小川、美野里、玉里という名称を残したか。それだけ地域のしがらみ強い地域なのかと個人的に思っている。小学校区の適正化を検討していくと思うが、すごい反論があると思う。全国探しても地域の名称を残したところは少ない。その中で市は3つの名前を全部採った。しがらみはこの上ない。その辺を教育委員会も十分検討してみんなが納得いくような新構成をお願いする。最後に変な話をしてしまったが、色々お世話様。

Q17 学校規模適正化についての基本的な考え方で、こういった数字が出てきたと思うが、野田小学校区に子どもが通っているが、保護者として、個人の意見としては、野田学区が適正化に伴って合併するのなら賛成できない。最終的にこの地域は統廃合することになるが、それでも適正化について賛成してもらえるかという形で、もう一度アンケートを取ることはできるか。

A 他の地区でも、もう一度アンケート調査を望んでいる地区がある。一定の進捗状況の中で検討委員会でも議論してもらい、必要であればそういった方法も採らせていただく。現時点では小学校区を回ることに、説明会をするに当たっての対象を絞り込んだ説明会等々を開催しながら、意見集約をしていきたい。具体的に進む中で、枠組み等が決まり必要という結論になれば、そういったこともやっていくことになるかと思うが、現時点ではやるという返事は出来ない。ご理解を。

平成24年11月28日(水) 上吉影小学校

Q1 規模について。小学校2学級以上、中学校では3学級以上、1学級20~30名と市の独自の方向性を示している。規模によっては、教員を増やす等の措置も必要であろうが、問題はないのか。

A 国が示す方針は1学級40名である。ただし、小学1・2年生、中学校1年生については35名。茨城県では、小学2年生も35名以下としている。

小美玉市では、中学校では全学年35名以下を実現している。

1学級40人では多い、35人以上では困るという声がある。上限を30人にしてほしいという声が多い。体育のサッカーを例にとれば、11人の2チームで、最低でも22名は必要になる。10人を下回ると複式学級も考えなければならない。そのようなことを考慮すると、適正な人数は、21~30名ではないかという意見をいただき、基本方針とさせていただいている。市では、上限35名を超えないということを目標にしているが、県と交渉して予算措置が伴えば、小学校3~6年生についても35名以下を実現することは可能である。今後国や県に要望して進めていくので、今すぐの実現は難しいが、視野に入れながら進めていきたい。

Q2. 市から県に要望が通れば、市が考える定員で学校運営が可能ということよろしいか。

A 上限35名を目標に進めていきたい。

Q3 35人より少ない場合にはどうするのか。

A 適正規模を20~30名とした。できるだけ適正規模に近づけていきたいので、保護者、地域、教師との話し合いをし、話がまとまってくれば、適正規模のような配置をやっていくことになろうかと思う。学区等の見直しも入ってくるかと思う。

Q4 パンフレットにある「コミュニケーション力の不足」を実感している。私の会社でも、同世代や仲の良い人とはうまく会話できるが、自分の世界と違う人や性格の異なる人とはうまくコミュニケーションがとれない。少子化によって、人と接する機会の減少や地域での世代間交流の減少などが理由として挙げられると思う。よって、ある程度の規模になるのは良いこと。

私は、小学校で25~30名で2クラス。中学校では120~150名で4~5クラスが必要ではないかと考える。中学校では部活を考慮するとこれくらいの数が必要。私は、アンケートの人数よりも多いほうがよいと考えている。

コミュニケーション力の育成のためには、学級の数や学級の人数を増やしていくのは良いこと。

通学手段の問題はあるが、バス等は何とかなると思う。何としても規模の拡大をお願いしたい。

全く別の話であるが、最近新築された学校がいくつかある。統廃合により、新しい校舎を利用するのは当然、その学校が中心になる、と考えてしまうが、教育委員会としてはどのように考えているか。

A 社会に出れば競争がある。ただ、小規模校だから、コミュニケーション力が不足しているということではもちろんない。小さい学校でもコミュニケーション力をしっかりと身につけた、あいさつもきちんとできるお子さんがたくさんいるので、そこと結びつくわけではない。しかし、ある一定数の人数がいることによって、クラスで不適用を起こしてしまった場合に、同じクラスで6年間過ごさなければならないということを防ぐことができる。

A 堅倉小, 竹原小, 小川北中の新築については, 3. 11後に早急に安全性の確保ということで耐震化を進めてきたことによる。耐震補強工事ではどうしてもない施設については建て替えということで予算を支出している。

そのような中で, 新しい校舎は適正化の基本的な施設として使われるのではないかという意見もいただいているが, 教育委員会としては, あくまでも耐震工事と学校適正化は別物であると考えている。よって, 新しい校舎が適正化の中心となる施設になるのだろうかという考えは, 否定をさせていただきたい。しかしながら, 莫大な予算を投じているので, 全く無視してやるのかというのは考えづらい。だが, 現段階では, 学校の耐震工事と適正化は, 全く別の次元で動いているとご理解いただきたい。校舎の新築にとらわれないことなく, 地域の, 市全体の望ましい規模, 適正な配置については, みなさまと議論を重ねながら, 50年先を見通しても対応できるような配置をしていきたい。

Q5 他の4校について, どの学校も古くなってきているが, どのくらいもちそうなのか。

A 建物については, 60年もつ。

A 危ない順に耐震化の整理をしている。補強工事で済むものもあるが, 補強工事をして限界があるという建物については, 建替えを検討している。

Q6 この改革は何年後くらいの目安で行うのか。また, 将来は子どもを学童に預けたいと考えているが, コミュニティースクールについて教えてほしい。

A パンフレットにも書いてあるとおり, 次は実施計画を作成する。そこで, いつからいつまでにといつのを決める。本来ならば, 概ねの目標年次を掲げるのが行政の役割であるが, 適正化については, 地域によって実情が異なるので, 地域の意見を頂戴し, 今後決めていく。現段階では, 具体的な時期というのは申し上げられないが, スピード感を持って進めていきたい。

A コミュニティースクールについて。

正式名称は「学校運営協議会」である。本協議会の下に部会が3つある。①地域教育部会②コーディネイト部会③評価部会である。参加者は, 教職員, PTA 役員, 学年委員, 野田コミュニティの役員, 地域住民の49名で構成されている。

それぞれの役割としては,

① 地域教育部会⇒学校と地域が連携を図っていくために何をしていけばよいかを様々な分野から考え, イベントを企画している。

② コーディネイト部会⇒学習面のサポートをしている。例: 学校ボランティアへの依頼

③ 評価部会⇒学校運営について評価し, 学校に改善を投げかける。

3つが相互に連携することによって, 学校活動, 児童への影響がよいものとなるよう目指している。

具体的には, 地域での運動会, 祭り, 地域保護者が参加できるイベントを実施。

コミュニティの活性にも役立っている。コミュニティがうまくまわることで, 学校や地域の活性化につながっていく。

A 補足をしたい。市の適正化検討委員会での経緯や会議録が市のホームページに載っているので, 見て, 確認していただきたい。



Q7 統廃合により、学区は変わってしまうのか。

A 適正化委員会で答申をいただいているが、その中には、歴史文化を大切にしながら、尊重しながらと書かれている。よって、教育委員会では現状の枠組みを大きく崩さないのが適当であると考えている。しかし、地域の方々との話し合いで、見直したほうがいいたろうという区域については、ご理解を得た上での学区の見直しも検討していく。

Q8 平成29年には人数が減少していくという推計を出しているが、上吉影小学校の具体的な数を聞きたい。

A 上吉影小学校では、平成24年度9月1日現在で183名。29年度の推計は141名である。しかし、9月1日現在の出生数で推計を出しているので、毎年変動する可能性はあるが、現在では、そのようになっている。小川北中学校は、24年度9月1日現在233名。29年度の推計は231名で、横ばいである。横ばいである理由は、野田小学校の推計が、減少という形が出ていないためである。

平成24年12月2日(土) 下吉影小学校

Q1 小中一貫校という説明があった。何年から始まるのか決まっていなと思うが、小美玉市で1つにするのか、2つ構想があるのか。

基本方針が決まって、何年ごろから実施をしたいのか。私たちは、下吉だけを考えればいいのか。

A 小中一貫校は、茨城県でもいくつか始まったところがある。小美玉市でも小中一貫という議論を、今後学校のあり方ということを考えればしていかなければならないということで、基本方針で市の学校のあり方、将来のビジョンの中に組み込みをさせてもらった。小中一貫といっても、小美玉市1つをとって見ても地域ごとに実情がある。学校の規模についても格差が付き始めている。画一的に同時に、市内全体を小中一貫にするのは不可能に近い。地域の実情、学校の配置を考慮しながら地域住民の方々と話し合いの下に、また学校の先生方と意見交換をしながら小中一貫がスムーズに移行できる場所を模索していく。どこの地域を、市内でいくつ小中一貫をやるということについても今後の議論になる。

統廃合の時期についても、地域ごとに非常に格差がある。今回初めて基本方針の説明をさせてもらった。小学校区ごとに基本方針の中身について意見交換をしながら、ご理解をいただきながら進めていくと委員会でも検討した。適正化の時期については、いつからいつまでにというのも、今後皆さんと話し合いをしながら、また検討委員会でも十分協議をしてもらい決めていきたい。下吉影小についても少人数化という現状がある。一方では、スピード感を持ちながら、緊張感を持って進めてまいりたい。

Q2 目安として、何年とかはないのか。

A 目安も今のところ決めていない。本来であれば目標年次を定めて、それに向かってというのが一般的であるが、適正化、特に配置については非常にデリケートな要素を含んでいる。原則として住民・保護者の理解を得た上で決めていく。今後適正化の実施計画で、時期や具体的な手法については決めていくことになっている。これから実施計画策定にあたって十分に議論をし、決めていく作業になる。

Q3 気がついたら決まっていたということがないようにしてほしい。

A 十分承知している。

適正化のあり方について、この地域・この学校だけ考えればいいのかという質問については、統廃合するだけが適正化の手法ではない。学区の見直しなども場合によっては出てくる。隣り合わせの小学校区についても意見をいただくということが今後あると思う。市内全体をという話が大きくなっていく。地域ごとの実情もあるので、地域の方の意見を十分聞きながら、ということになる。

Q4 先生に伺いたい。例えば、上吉小と一緒にするという前提の話で申し訳ないが、ここへ上吉小の児童が入るだけのスペース(教室)はあるのか。

A (校長) ありません。

Q5 入る余地もない？

A (校長) そうですね。

Q6 わかりました。

Q7 パンフレット P3 の下に、小学校は学年2学級以上を目安となると、下吉小については、1学級で来ているので、適正化の対象になると思われるが、地域住民、児童等がこの学校単独で今後も学びたいという場合には、どのように考えるか。

A この小学校は、ご承知のとおり各学年1クラスで学校運営をしている。適正化については、方針として、適正規模を将来的にも学校運営、子どもたちの為にも望ましい規模を方針として決めた。地域の皆さんから下吉影小学校は現状のままがいいという意見が仮にあった場合は、真摯に受け止める。しかし現状のまま、今後何年間推移するのか、何十年間推移するのか。そういったところを皆さんと議論を開始させていただいて危機的な状況になるデッドラインはどこなのか、どこまで少なくなっても維持していくのかということも含めて議論を開始させていただきたい。今すぐどうするかを議論するのではなく、将来的にも今後の地域の学校のあり方、10年後、20年後、30年後を見据えた中で議論を開始した中で、然るべき対策の時期（何人になったらどうする）を将来の目安として示している。今後の話し合いの中で、また子どもたちのためにどういったところで判断するのか、一緒に考えていきたい。

Q8 具体的にはまだ何も決まっていないということでしょうか。

A そのとおり。

Q9 スライドの中で、小中一貫教育が出たが、一貫教育をしてメリット・デメリット、地域の声は何かあるか。

A 小中一貫にした場合のメリットは、よく「中一ギャップ」と言われているが、小6から中学校に上がった段階で、例えば教科単位制になって、子どもたちの精神的な負担が大きくなるとか、そういった例に対して対処できるということを聞いたりする。小中一貫ということで、教員も行き来があるので、先生方が中学校に入った段階で全く顔を知らないと言えないということで、子どもたちの精神的なハードルを低くしてあげられる、ということでもメリットがあると聞いている。

Q10 成果として学力が上がるかはあるか。

A まだ長い期間経っていないので、把握していない。

Q11 野田小学校でコミュニティ・スクールを実施している例があったが、成果等の声は聞いているか。

A 野田小コミュニティ・スクールも本格的に始動したのが本年度から。前2年間は実践研究で、組織的に立ち上げたのは本年度からのため、成果が明確に現れるほどの活動はまだ行われていない。正式名称は学校運営協議会。その中に、PTA・教職員・地域の方々が入って、学校の運営について協議をしながら学校の教育方針なども学校運営協議会の中で議論しながら、学校に提言していく組織。学校行事なども検討しながら、子どもたちのためにより良い教育を目指していくものだと思っている。成果自体についてはまだはっきりとは出ていない。

Q12 野田小の地域住民の声、コミュニティ・スクールをやることよっての意見は何かあるか。

A 教育委員会には入っていない。指導室の職員が学校運営協議会にも参加して、様々な意見を聞くことは可能になっている。野田小で行われているコミュニティ・スクールの状況・実績等は、今後市内で広がっていくであろうコミュニティ・スクールに十分活かされていくと思っている。

Q13 小学校2学級以上、中学校3学級以上、20名～30名と決めた数字は、アンケートで決められた数字か。

A 適正な規模は、国・県からある程度の数字を示されている。住民から広く意見を聞くということでアンケート調査も実施している。指針に基づいて、さらにアンケートの多数意見を考慮し、検討委員会の中で小美玉市ではどこを目指すという、小学校は2学級、中学校は3学級、1学級の規模20～30人という幅を持たせた形で決定をした。アンケートを重要視はしたが、アンケートの結果だけで決めたわけではない。

Q14 実際、先生方から見て子どもたちの成長を考えると、こういった数字がいいのではないかとということとで市として決定した数字でいいのか。

A アンケートは、市民、保護者、教職員に伺っている。集計した結果、バラつきはあるが、先ほどの表のようになっている。教職員だけではなく、市民・保護者にもアンケートに協力してもらい、先ほど示したところに多数の方が評価をした。

Q15 教育長の話しの中に、噂ということがあったが、現実の下吉影小学校は老人ホームになるのではないかと噂がある。将来的には分からないが、今現在そういう噂が出るということは、誰か言っている人がいるのでないかと半信半疑になる。その辺を打ち消してもらいたい。

A 最初、挨拶で申し上げたように、どこの小学校がなくなるとか。どことどこが何年以内に一緒になるとか、色々な噂を聞いている。最初申し上げたように一切決まっていない。理解していただきたい。

平成24年12月3日(日) 小川小学校

Q1 小美玉市の学校教育に対して、コミュニティ・スクールは野田小のみ行われているということだが、保護者・児童・先生の一体感ということで、教育的にも広がるかと思うが、他の学校にも広げようとする姿勢が見られない。広げようとしているのか。実現化に、どういう方向性を持って市は進んでいくのか。

A コミュニティ・スクールについては、小美玉市では現在、野田小のみ実施している。説明の中でも茨城県内唯一の実践校と説明した。今後、市内の他の学校に広める予定があるのか、という話だと思うが、コミュニティ・スクールに関しては手続がある。自発的に地域から声上がる。それに対して教育委員会がサポートしてコミュニティ・スクールを立ち上げるというプロセスがある。教育委員会でも大々的にコミュニティ・スクールの推進・アピールは行っていないのが現状。適正化の話を進める上で、小・中一貫、コミュニティ・スクールという新たな教育の進め方について、基本方針の中で提示をしているが、実施計画を検討していく上で、検討委員会の委員・教育委員会の中で協議・議論していきながら、どのように進めていくかを決めていきたい。ご理解を。

Q1 アンケート調査項目について、総合的に約7割弱の方が意見を出したということだったが、一般市民がどれくらい、保護者がどれくらいだったか分かるか。

A	市民	1,000人を対象	→回収	455人	45.4%
	保護者	小・中学校 全員対象	3,671人	→2,730人	74.4%
	教職員	小学校	187人	→177人	94.7%
		中学校	98人	→86人	87.8%
	合計		4,956人	→3,468人	68.9%

Q2 先生の意見がたくさん寄せられているということだったが、規模適正化の小学校2学級以上、中学校3学級以上、1学級20～30人という規模は、先生の意見が大きく反映されていると思う。これはいいと思うが、適正規模というのは、これとは違って市として持ってもいいのではないか。現状を把握して、これくらいの形になるというのを持たれた方が進めやすいのではないか。

A パンフレットの基本的な考え方の所にも記載したが、「36人以上の学級が生じないように配慮」とあるが、現在1学級40人。国は、小学校1,2年生の35人学級を検討。徐々にではあるが、市としても36人以下の学級をできるだけ作っていきたい。シュミレーションすると、ほとんどの学校が30人を切ってくる人数になってくる。現在の40人は、机も大きくなっていることから、スペース取れない。また1学級20人いると、サッカーや野球などの運動にも耐えられる。今のところ、1学級の規模は35人を目指すというのがひとつの目安で、徐々に下げていきたい。

Q3 小中一貫教育は、現在進められているところが県内にもあるが、問題点として気づいた点あるか。

A 県内で小中一貫を古くから始めている所は、水戸市の国田小中学校。同じ敷地内に同じ校舎を使った形で行われている。現在進められているのは、つくば市で小中一貫を進めているが、今年から始まったばかり。

メリット・デメリットについては一般的に示されているものは把握している。デメリットとして、小・中学校の節目が薄れてしまって新しい気持ち的なスタートが切りにくくなる。小学校においてT・Tの授業を中学校に広げた場合、教科担任制をとっているので、副担任制を設けると、中学校の先生が今より多忙な状況になる可能性が出てくる。施設の関係で、小・中学校ともに職員室があるが、同じ施設で小中一貫を進める場合は職員室を1つにする必要がある。新たな施設を作る必要性が出てくれば、財政的な増加も大きく影響してくる。

メリットについては、先ほどの説明のとおり。

Q4 人数的に少なくなってくるということで、統廃合はやむを得ない現状かと思うが、マイナスとして、通学時間がある。通学方法が問題になると想像する。代替案として考えられることは結構あると思うが、今のように個人的に時間を調整して動くことが出来ないので、部活なども制約が出てくるのではないか。

A ひとつの手段として考えられるのは、通学距離が遠くなるということでスクールバスの運行が考えられる。学校の規模、学区の範囲等において、スクールバスの便数や、生徒の活動の時間帯にどう対応していくのが課題として残っている。今回の基本方針では、頭出ししてあるが、議論が進む中で地域の実情に応じた通学手段を地域の皆さんとよく議論をしながら決めていきたい。

今回、学校の規模は示してあるが、配置については示していない。配置・学区の範囲によって、大きく通学距離、またはバスがいいのか別な形がいいのかは議論が必要になってくる。きめ細かなところまでよく検討して、話し合いをしながら決めていきたい。

Q5 20人～30人で話を進めていった時に、今の学校では場合によって足りないという状況が近々出てくる状況がある。35人・35人の2クラスでやっているが、70人いるので3クラスにしなければいけない状況も出てくる。竹原小は2学級のつもりで新校舎を造る予定だが、教室が不足する状況が起こってくる可能性がある。市ではどのように考えているか。

A 現在、竹原小の児童数は308人。H18が350人。H24が308人。H29で250人。250人を単純に30で割ると10クラス以上にはならない。学区の再編もあるかも知れないが、これからの検討課題なので、適正な配置にすることは校舎の大きさから十分可能ではないかと考える。

平成24年12月6日(木) 納場小学校

Q1 アンケートの母集団はどのように選んだのか。

A まず、1000名の一般市民の方を、年代や地区が均等になるようにランダムに抽出した。その中には、市内の保育園・幼稚園の保護者が入るように配慮した。次に保護者については、小中学校の全保護者を対象とした。教職員についても同様に、小中学校の全教職員を対象とした。それらを合わせて5000人をお願いをした。

Q2 学校適正化委員会の構成メンバーに10代や20代の若い世代がない理由は？

A メンバーについては、学識経験者・市議会代表・校長会代表・保護者代表・教育関係諸団体代表・区長会代表で構成している。保護者代表8名については、各地区のPTAの役員の方をお願いしている。10代や20代となると、保護者代表の中には入らない。また、各種団体の役付きの方をお願いしているので、10代や20代はなかなかあてはまらない。10代や20代に的を絞って構成したわけではない。

Q3 昨年子ども議会の中で、「美野里中学校は、部活をいろいろ選べるが、小川の中学校に行くと限られてしまう」という意見があったので、そのようなことも反映してもらえればよりよいものができると思った。アンケートだけで吸い上げると、意見が偏ってしまうのではないかと思い、質問した。

Q4 基本方針がアンケート通りのようだが、適正化委員会では、アンケートと違う意見は出なかったのか。

A 1学級20～30人という数を出すにあたっては、適正化委員19名に12回の検討を重ねていただいた。これを裏付けるためのアンケートということで実施した。委員の意見とアンケートがほぼ合致し、そこからこの結論が出てきた。委員さんには、協議だけでなく、大きな学校や小さな学校などいろいろな学校に行ってもらい、子どもたちの様子を見てもらった。その上で、子どもたちにどのような大きさの学校がよいかを十分に検討してもらった結果、この数字が出てきた。

Q5 基本方針を単純に当てはめた場合、学校は減るのか。納場小学校はどうなるのか。

A 単純に当てはめた場合、学校は減る。将来的に必要な時期がくる。ただ、減らすことだけが適正化の方法ではなく、例えば、学区の見直しなども効果があるが、それだけだと耐え難い部分も出てくる。よって、統合を考えなくてはならない状況も出てくる。

A 納場小学校では、平成24年現在で313名。平成29年には、318名の予定である。学級数は2学級、1学級も20～30名という現状である。



平成24年12月8日(土) 堅倉小学校

Q 具体的な各学校の人数を知りたい。また、いつまでに実施したいのか。  
最終的には議会の判断になるのか。

A

学校名	H24年度の児童生徒数(名)	H29年度の児童生徒数(名)
小川小学校	362	354
野田小学校	239	274
上古影小学校	183	141
下吉影小学校	78	75
橘小学校	199	175
竹原小学校	306	258
羽鳥小学校	470	569
堅倉小学校	372	344
納場小学校	307	320
玉里小学校	213	172
玉里北小学校	160	134
玉里東小学校	66	61
小川南中学校	292	276
小川北中学校	233	231
美野里中学校	749	699
玉里中学校	215	230

なお、野田小学校については、自衛隊の官舎があるので予想が難しい。この数字は、平成24年度の出生数からそのまま算出したものであるのご了承願いたい。

A 各地域でばらつきがあることから、市全体でいつからというのは難しい。地域の意見も多様化している。まずは、地域の実情を理解してもらい、議論を重ねた上でご理解を得るという作業から入っている。よって、いつからというのは決めるべきではないし、決めていない。行政の本来の役割として、時期を示しながら進めていくべきところであるが、学校の適正化は慎重に進めていきたいので、ご理解をいただきたい。

議会からは3名の代表者がいる。適正化は、最終的に予算を伴い、議決がなければ実現できない。よって、議会の理解も得ながら進めていきたい。

平成24年12月9日(日) 羽鳥小学校

Q1 小学校が、7/12が1クラス、中学校は2/4が2クラスのようなのだが、基本的なところで考えている適切な学校数は、どのように考えているか。

A 小・中学校の現状で、小中学校の全体的な減少数を説明させていただいた。あくまでも全体。減少の所、増加の所、地域によって格差が生じている。そういった中で適正な規模をこれから決め、配置の計画になる。配置の中で適正な数が出てくる。現時点では小・中学校の現状を理解してもらい、説明した骨格となる学校の規模の部分をご理解いただいてからそういった所に入っていくと考えている。パンフレットの表紙一番後ろに記載されているが、上段3つの考え方を整理したもの。適正な配置ということになれば、現在の通学区域が望ましいのか。見直しが必要なのかという所から入り、どうしても区域の見直しだけでは適正な規模が目指していけないということになれば、学校そのものの統合というものも検討していかなければならない。統合等が生じたところ、特に統合によって学校の位置が現在より遠くなる児童生徒も発生する。そういった時には、通学の手段についてもあわせて検討していく。これから具体的な実施計画を詰めていくことになる。

羽鳥地区は増加傾向。通学区域、校舎の問題。いろいろあろうかと思う。皆さんと十分話し合いながら、今後の学校のあり方等について、検討してまいりたい。

Q2 統廃合になれば、廃校になる学校がある。学校というのは学ぶ場所でありながらも、地域の非常時に集まれる場所でもある。建物は後々どのように考えているか

A 統合により廃校になった場合も含めて、小学校は地域のコミュニティの骨格施設ということで重要視されている。仮に小学校が統合で無くなると、地域にとっては重大な問題だと思っている。一緒に併せて、地域のこれからのあり方、小学校の後の利用の仕方、共に考えていく必要がある。廃校になった場合の施設の使い方についても、地域の皆さんと十分話し合いをしたうえで地域の実情にあった施設の利用の仕方を考えていきたい。統合されて無くなればそこは潰して・・・ということではなく、地域のコミュニティが存続できるような施設の使い方を考えている。地域の皆さんの声を十分聞きながらと考えている。

Q3 全国的な規模で少子化に向かっているという話だが、他の市町村の動向を聞かせてほしい。

A 県内の他の市町村の状況。44市町村のうち検討に入っている、もしくは終わっている、検討中も含めると30市町村ある。行方市も実施計画を策定後、計画の実行に移っている。鉾田市は市内4つの中学校に小学校を集約し、学校の再編を図ろうというところ。茨城町は、実施計画策定が終了し、住民説明会等を進めながら再編に向けて動き出している。笠間市も同様。実施計画策定が終了し、住民説明会を行いながら実行に向けて動いている。石岡市は、基本方針策定終了。現在実施計画の策定に動いている。再編が進んでいる学校もあるが、市全体としては実施計画が未策定。かすみがうら市は、基本方針の策定終了。再編の計画に向けて動いている。